

介護老人保健施設わたつみ苑での看取りの様子

◇透析導入を希望しないNさんを看取って◇

介護老人保健施設わたつみ苑での看取り

看護職員
の役割及び
具体的なケア

- ①看取り期であることの判断
- ②苦痛を伴う症状の緩和
 - 1) 疼痛・苦痛の緩和（身体面、精神面）
 - 2) 症状を緩和する方法
- ③毎日の生活ケアを丁寧に提供する。
食事・口腔ケア・清潔・排泄
- ④家族の支援・・・終末期利用者の家族がもつニーズ

症状を緩和
する方法

- ①呼吸困難・喘鳴
- ②水分量の調整（点滴や経管栄養など）
- ③分泌物を減らす薬剤の検討
- ④身体的位置調整
- ⑤褥瘡予防

終末期利用者の家族がもつニーズ

- ・利用者の状態を知りたい。
- ・利用者の傍にいたい。
- ・利用者の役に立ちたい。
- ・感情を表出したい。
- ・医療、介護従事者から受容と支持と慰めを得たい。
- ・利用者の安楽を保証して欲しい。
- ・家族メンバーより慰めと支持を得たい。
- ・死期が近づいたことを知りたい。
- ・自分自身を保ちたい。

Nさんについて

75歳男性。

〔家族〕妻と二人暮らし、県内に息子2人在住。

〔過去の仕事〕溶接の仕事を退職後、シルバー人材センターで草ひきなどの仕事を行っていた。

〔既往〕心原性脳梗塞症後遺症（左上下肢麻痺）

洞不全症候群（ペースメーカー植え込み）

認知症状

末期腎不全（透析導入は希望しない）

〔入所の理由〕

家族の介護負担の軽減

食事療法や内服療法

看取り



体調が一進一退するごとに 様々に不安を訴える妻のNさんのことだけを考える時間

妻の不安

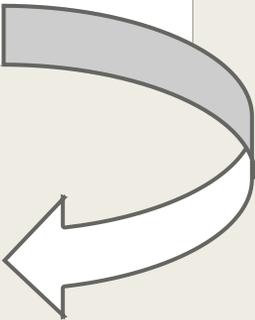
- ・ Nさんの様子を見るたびに訴えが変わる
- ・ Nさんが食事できなくなると、妻は、何も口にしないことに不安
- ・ それでも不安はぬぐえない

医師は腎性貧血の治療や輸血なども提案

摂取できる、飲み物などを提案、試み、吸引

最低限の点滴

妻は、自らNさんの口に水分などを運ぶことで、食事摂取機能が低下していることを認識。
これらの流れは、最後にNさんのことを考え、これだけのことをNさんにできたという時間



息子たちが身体を拭きながら 「おやじ、お疲れ様、ありがとうな」の言葉に良い看取りを実感

個室移動

- ・家族が寝泊まりでき、親戚などが訪れやすくなるように
- ・家族と同じ時間を過ごすことができ、意思疎通がはかれるうちに家族とのコミュニケーションが可能
- ・看護師や介護福祉士がその都度関わる安心感

最期の時の息子の質問

「どうして、このような状況になったんですか？」

丁寧な説明

- ・Nさんがわたつみで過ごされることになった経緯
- ・いくつかある選択肢の中でご本人の意思で決められたことで、どちらも、間違っていないと思うということ

上半身を拭く際のこと

- ・介護福祉士の提案で、妻に「一緒に拭かれますか？」と声掛け
- ・息子二人が、「私にも拭かせてください。」とおっしゃられ、驚き
- ➡これまでの経験から男性が拭くという発想が全くなく、既成概念に捉われないことの大切さに気づく

息子さんたちは身体を拭きながら、「おやじ、お疲れ様、ありがとうな」
介護福祉士の家族やNさんへの細かい心遣いがあったおかげで良い看取りができた実感